

初めての街道を歩いていて、地元の人に道を尋ねる。

「も一ちょっと先に曲がり角があるので、それを右に曲がって・・・」

「もうすぐ、もうすぐ、すぐ判るから・・・」

「角に大きな家があるから、ここからすぐ、すぐ」

近そうだと思うがどの程度かはっきりしない。歩いて何分とか、何百mとか、ヤボな聞き方は出来ない。そんな時には、その人の年齢と顔の表情で距離を出すことにしている。

歴史の道調査報告書でも街道を紹介している。

「街道の現況」という項目で、街道の起点から出発して、街道沿いの風景を書いてある。地元の方の目線で書いてある。

「町の中心部の〇〇交差点は△△街道と××街道が交わり、そこから△△街道は始まる。」〇〇交差点はどこだろうと添付の地図を見るが交差点名はないが、街道の線が始まっているので、そこだろう。

「少し先に、〇〇寺があり樹齢何年の楠があり市の文化財にも指定されている」地図を見ると神社マークが何か所もある。どちらだろうか。

丁寧な報告者なら地図に番号があり、一覧表で合わすと探し出せる。

大きな旧跡ならそうなのだが、現況報告の文書には、「すぐ先の坂を登れば街道の道は細くなり・・・」とあり、「どの坂だー」とうなり声が出る。

それでも現場に行った後は、「すぐ先の坂」があれだったかと思い出せる。

街道を歩いたことをウェブに載せて紹介しているのがたくさんある。

非常に細かく丁寧に沿線の現況を歴史も混ぜながら、かなり手間を掛けただろうと思うものがある。そこに行ってみたいので記事を読むのだがイメージは湧くが場所が判らない。最近では地図を張り付けているがコース図だけな場合は判らない。「その先の交差点は街道が消えているので要注意だ。〇〇商店の東側が街道だ」交差点はどこ、〇〇商店はどこ。

仲間と街道歩きをしている時に、同じ地図を見て場所を確かめている。

「〇〇川」と書いてある「川」の字の右上の別れ道を右に曲がります。

そんな仲間同士の会話が飛び交う。

走った後も、「〇ページの右端の民家付近の街道は消えていたなー」と。

街道の場所すぐにわかるように、「距離表示」と「黒丸」の街道地図にした。

「次は23.5キロの交差点を右に曲がります」